

まぼろし

魔法のように始まった夜も更け

眠りにおちる何もかもまぼろしのよう。

今一番心に来たる曲。岡山右任の百女生ミュージシャン
"お夏さんズ"に頂いたCDの"まぼろしステディー"という曲だ。

まさに、この人生も、この世界もまぼろしなのだ実感した。
人生の3分の1は、睡眠に費やしているのだ。生きるとは
3分の2が人生なのだ。

これまでのことを思い返し、まさにまぼろしの様で、
記憶もあいまいだし、他と混じり合って、自分の都合のいい様に
解釈に楽しんでいる。

過ぎ去った時間は、ついさきども、昨日も今まじま、まるで
まぼろしなのだ。

もし未来はといえば、誰にも予想のつかないもので、
イメージ、想像のものでしかない。

やはり、前後のな、"今"こそが人生だ、この一瞬のまぼろしを
どう生きるか。どういつ凡に自分を組み立ててゆくか。

自分の姿は、生きるとは限り見ること出来な。この身体を内側
で操縦している限りは、一生見えない。

そうすると、自分もどういふ人間なのか、何者なのかは、他者の
意見や、周りの評価で判断する他ない。

まさに、あいまいで、まぼろしなのだ。

たとえたら、このストーリーを活かすも殺すも自分次第。

操縦者の思いがまま、自分次第なのである。

常識や世間体にとらわれすぎると小さく納まらぬ。これは

一歩をふみ出すことは難しいが、たとえ過去も未来も

すべてをとりこみ、2. まず、自分のために、自分の好きなことだけ

しかしないことに決めよう。それが非常識たぐうと。

社会の枠に納まらぬくとも、信じた道を求めるのが、自分だけの

ストーリーを完成させる。規則や法律は自分のルールを決め

ればいい。実のところは、押しつけられたり、奪られたりするのは

何もなし。義務も責任も一つもない。

僕は、仕事用ロボットになつたものの教育を受け、社会が操り

やすい様に洗脳された。才能を活かすことも口かかじらぬに

縛られていた。本当は、働かぬことも、何もしなぬこともいい。それ

自由。この社会の枠に居ぬこともいい。実は自由。

且か合えば生きとやける。社会の世話になる必要は全くない。

どうせまぼろしなら、納めぬのにも構はない。好きな様に、自分らしく、

自分の大好きな世界を描いた方がいい。必ず仲間が出来、共感し

た人たちが集まり、小さな社会ができる。まぼろしを彩り

合える。人生というまぼろしが豊かき尊いものになる。

全とは、自分のストーリーのため、自由に、今更にも変化させる。

た、た今、今だけがリアルであるとは可なりまぼろしなだけ。

今がよければ可なりよし！ そんな考えじゃダメ!! と教育された

きたけど、今しかないから、今だけを楽しく。よし、まぼろしを

充実させ、重ね合ふ。多彩のあるストーリーを構築しやう。

もっと好きを勝手にいひたいと思う。感謝と尊敬は忘るべきに。